特定非営利
活動法人 中山間地域フォーラム

# 設立10年間の軌跡


| | | 頁 |
|---|---|---|
| 1. | フォーラムの10年間を振り返る（佐藤洋平会長） | 1～2 |
| 2. | 10年間の主な活動 | 3～4 |
| 3. | 設立趣意書・設立総会（2006年） | 5～6 |
| 4. | 設立記念シンポジウムの概要（第1回～第10回） | 7～16 |
| 5. | 第1回フォトコンテスト優秀作品 | 17 |
| 6. | 中山間地域フォーラムへの入会のお誘い | 18 |


2016年7月23日（土）

（設立10周年記念シンポジウム開催日）

# １．　フォーラムの１０年間を振り返る
## －　叡智と熱意を結集し中山間地域の再生をめざす　－

特定非営利活動法人中山間地域フォーラム　会長　佐藤　洋平

（1）　中山間地域フォーラム設立の背景

私どもの中山間地域フォーラム（以下「フォーラム」）は、本年、設立10年の節目を迎えました。設立以来、私どもの活動にご支援、ご協力を頂いた多くの皆様に感謝申し上げます。

ただ、10年間が過ぎてフォーラム設立の背景をご存じでない新しい会員やシンポ参加者も多くなったようですので、12年ほど前の出来事から振り返りたいと思います。

きっかけとなったのは、2000年度から5年間実施された「中山間地域等直接支払制度第Ⅰ期対策」を検証し、「第Ⅱ期対策」の方向性を検討する検討委員会（中山間地域等総合対策検討委員会）の場でした。この「直接支払制度」を通じて「中山間地域」という言葉が広く使われるようになったと思います。「中山間地域」とは、農業統計用語の「中間農業地域」と「山間農業地域」を合わせた言葉ですが、農業生産の条件が恵まれている「平地農業地域」と比べ、傾斜地や森林が多く都市から離れているため、農業生産だけでなく、日常生活でも大きなハンディキャップを抱えています。例えば、農業生産における労働生産性や土地生産性が「平地」に比べ3～4割低いだけでなく、耕作放棄地の割合（2000年）も7.1％で、「平地」（3.2％）の2倍以上にもなっていました。

直接支払制度「第Ⅰ期対策」の最終年（2004年度）に開かれた検討委員会の最終回が閉じられようとするとき、ある委員から、次のような発言がありました。

「中山間地域等を対象とする施策はもう十分に揃っている。それを現場でいかに使っていくかということが非常に重要になっている。しかし、中山間地域等の状況は、これから先5年を見てもやはり厳しくだんだん酷くなっていくと思う。それを本当に放置していいのだろうかという気がする。現地の市町村や集落での施策への総合的な取り組みを元気づけたり支援したりというような活動、ボランティアでもいいと思うけれども、自主的にお手伝いをする方法はないのかなという気がする。いろんな形で中山間地域等を大事にして、それを応援していくような運動というか活動というか、そういうことを何かやる必要がある。」

この発言を受けた検討委員会の座長は、ほぼ1年の熟慮の後、発言された委員に呼びかけ中山間地域の課題解決を考える有志による研究会を始めました。そして、毎月、研究会で顔を合わせているうちに、参加者の気持ちはやがて活動を継続するための組織を作ることが必要だということになり、最終的に本冊子の5頁に掲載しました「中山間地域フォーラム　設立の趣旨」が取りまとめられ、「中山間地域フォーラム」が立ち上がることになったわけです。

フォーラムの設立総会は2006年7月1日に国会近くの砂防会館で開き、同時に第1回研究会も開催しました（6頁の開催チラシを参照）。全国から想定をはるかに超える約200名が参加し満員となった会場で「中山間地域の再生に向けて今何をなすべきか」について熱い議論が交わされました。当初は任意団体でしたが、6年間の活動を経た後、2012年12月に特定非営利活動法人（NPO法人）となりました。

（2） 中山間地域フォーラムの活動を振り返る

フォーラムの目的(中山間地域の再生)を遂行するための活動は、大きく次の5つに分けられます。①ネットワークの形成、②シンポジウム・研究会の開催、③政策提言・緊急アピール、④地域支援・人材育成、⑤情報発信の5つです。

具体的な活動内容を紹介しますと、まず【②シンポジウム・研究会の開催】では、毎年、東京大学弥生講堂で開催する中央シンポジウムと地方持ち回りで開催する現地フォーラムがあります。中央シンポジウムのテーマは時宜にかなったものとするよう努めており、2011年には原発事故で全村避難を余儀なくされた福島県飯舘村を取り上げた(『早期帰村』実現の課題－福島県飯舘村)ほか、2014年には地方消滅論を巻き起こした増田レポートを批判するテーマ(はじまった田園回帰－『市町村消滅論』を批判する)としたところ、会場(一条ホール)の収容人員いっぱいの参加者となり、関心の高さがうかがえました(10年間のテーマとシンポのプログラムは7～16頁をご覧下さい。)。

【③政策提言・緊急アピール】は、これまで4回行っています。2007年7月には国土形成計画の策定に対して「中山間地域の再生に向けて－国土形成計画への提言－」、翌月には、ふるさと納税の議論に対して「志ある資金の地方への移転システムの構築を」、2010年11月には「中山間地域等直接支払制度「見直し」を批判する緊急声明」、また、2015年8月には地方創生政策に対する緊急提言「地域の内発的なプロセスの重視を」を、それぞれ発表しました。

【④地域支援・人材育成】では、フォーラム設立以来、群馬県南牧(なんもく)村で支援を行っています。高齢化率日本一の山村ですが、15名の若者たちが立ち上がり「明日の南牧を創る会」が組織され、村内の空き家調査が自主的に始まるなど、変化のきざしが見られます。そのほか、岩手県西和賀町の「にしわが安らぎの郷協議会共生・対流推進事業」の申請・実施の支援、山口県における域学連携事業の支援なども行っています。

また、中山間地域の「くらし」をテーマにフォトコンテストを行い、アーカイブとして中山間地域の「今」を残す取組も昨年から始めました(17頁に昨年の優秀作品を掲載)。

【⑤情報発信】では、ホームページ、フェイスブック、ニュースレター(メール)による情報発信のほか、研究会やシンポジウムなどの成果を取りまとめた会報を刊行し第1号・第2号会員に配布しています(18頁では、会員種類の説明や入会のお誘いを掲載しています)。

（3） 中山間地域の再生にむけた叡智と熱意を歓迎－むすびにかえて－

フォーラムは、様々な分野の専門知識、豊かな実務や実践の経験を有する産学官民の有志によるネットワークで、事務所もありません。新たな時代の中山間地域のあり方や振興策について英知を結集し、政策提言などを行うとともに、地元の自主的な創意工夫と努力による再生への取組みに対して力を合わせて協力し支援することを目的にしています。中山間地域が次世代に受け継がれていくよう共に英知と熱意を注いで下さる皆さんの参加を心から歓迎します。

## 2.　　１０年間の主な活動

（2006年）

| | |
|---|---|
| 7月1日 | 設立総会「**中山間地域再生に向けていま何をなすべきか**」 |
| 10月 | 支援モデル地域候補地への現地調査 |

（2007年）

| | |
|---|---|
| 3月 | 「国土形成計画」について提言シンポジウム |
| 7月 | 設立1周年記念シンポ「**中山間地域再生の最前線**」 |
| 7月 | 「国土形成計画への提言」作成 |
| 8月 | 「ふるさと納税」に関する緊急アピール |
| 9月 | 台風被害に遭った南牧村への支援の呼びかけ |
| 11月 | 緊急研究会「限界集落等の支援施策のあり方を探る」 |

（2008年）

| | |
|---|---|
| 5月 | 現地フォーラムin石川「里づくりは人づくりから」 |
| 7月 | 設立2周年記念シンポ「**過疎地域の現在・過去・未来**」 |
| 7月 | ロゴマーク決定 |

（2009年）

| | |
|---|---|
| 1月 | ポスト過疎法についての勉強会開催 |
| 2月 | 集落支援員全国交流集会「若者が集落の元気をつくる」 |
| 3月 | 群馬県南牧村のモデル地区でワークショップを開催 |
| 7月 | 設立3周年記念シンポ「**どうする中山間地域等直接支払制度**」 |
| 10月 | 現地フォーラムin熊本「多面的機能から中山間地域を考える」 |
| 11月 | 緊急シンポ「新政権に問う！どうする農山村地域」 |

熊本市での現地フォーラム

（2010年）

| | |
|---|---|
| 2月 | 群馬県南牧村に「明日の南牧を考える会」設立 |
| 7月 | 設立4周年記念シンポ「**地域再生に企業は何ができるか**」 |
| 11月 | 緊急声明「中山間地域等直接支払制度の見直しを批判する」 |
| 11月 | 現地フォーラムin京都「地域担当職員制度を考える」 |

（2011年）

| | |
|---|---|
| 3月 | 第1回中山間地域研究会の開始（現在まで２２回実施） |
| 7月 | 設立5周年記念シンポ「**早期帰村実現の課題ー福島県飯舘村**」 |
| 11月 | 現地フォーラムin新潟「長期的な震災復興対策」 |

（2012年）

| | |
|---|---|
| 3月 | 現地フォーラムin南牧 |
| 7月 | 設立６周年記念シンポ「**中山間地域再生の新潮流**」 |
| 9月 | 林業をテーマとした研究会開始 |
| 11月 | 現地フォーラムin盛岡「『拡大コミュニティ』による震災復興」 |
| 12月11日 | 特定非営利活動法人中山間地域フォーラム発足 |

（2013年）

| | |
|---|---|
| 1月 | 人材育成をテーマに研究会開始 |
| 7月 | 設立７周年記念シンポ「**中山間地域フォーラムは何ができるのか**」 |
| 12月 | 現地フォーラムin広島「TPP時代を生き抜く中山間地域」 |
| 12月 | 中山間地域フォーラム会報第１号発行 |

（2014年）

| | |
|---|---|
| 3月 | 中山間地域研究会(第22回)「里山資本主義を生きる若者たち」 |
| 7月 | 設立８周年記念シンポ「**はじまった田園回帰ー見えてきた農山村再生**」 |
| 12月 | 現地フォーラムin高知 |

（2015年）

| | |
|---|---|
| 4月 | 中山間地域フォーラム会報第2号発行 |
| 4月 | 南牧村サポーターズ倶楽部設立総会 |
| 5月 | 第１回中山間地域フォトコンテスト作品募集開始（～8月） |
| 8月 | 地方創生政策に関する緊急提言 |
| 10月 | 設立９周年記念シンポ「**どう創る、中山間地域の「しごと」**」 |
| 11月 | 緊急提言に関し国交省、農水省、内閣官房と意見交換会 |

９周年記念
シンポの模様
(一条ホール)

（2016年）

| | |
|---|---|
| 5月 | 第２回中山間地域フォトコンテスト作品募集開始（～8月） |
| 7月 | 設立10周年記念シンポ「**進化する地域運営組織ー地方創生の次なる焦点**」 |

# ３．　　中山間地域フォーラム　設立の趣旨

わたしたち日本人のふるさとであり原風景でもある農山漁村地域、なかでも平野の外縁部から山間地に至るいわゆる「中山間地域」には、多様な自然や生態系、美しい風景や伝統文化がまだ豊富に残されており、食料や林産物の生産だけでなく、自然環境や国土の保全、水資源の涵養、グリーンツーリズムや情操教育の場の提供など都市の人々にとっても多面的で重要な役割を果たしています。特に最近は、ゆとり・やすらぎ、安全安心が求められ、美しい農山村景観などの地域資源の保全活動、スローライフ運動、バイオマスエネルギー活用への関心なども広がる中で、国土面積の7割を占めるこの地域に対する国民の関心も高まってきています。

しかし、中山間地域は、総じて高齢化率が高く、過疎化が進行しており、コミュニティ機能の低下した地域では、耕作放棄地の増加、鳥獣害の発生、伝統的祭事の衰退、景観の荒廃などの深刻な事態が生じています。国土交通省のアンケート調査（2004年）によれば、全国の約２割の市町村で今後「集落消滅の可能性がある」とされていますが、そのほとんどもこの地域であろうと思われます。特に、今後予想されるわが国の人口減少、公共事業の減少、グローバル化による市場主義の一層の徹底などは、中山間地域に深刻な影響を与えることが懸念され、下流域の都市生活にその影響が及ぶおそれもあります。

平成１２年度から実施されている中山間地域等直接支払制度は、農業生産条件の不利を直接補正し農業生産の継続等に当面の効果を発揮していますが、さらに高齢化の進行する将来については不安を抱く意見も多く聞かれるようになっています。また、最近の「都市再生」や市町村・農協の広域合併により、中山間地域の条件の不利な集落にきめ細かい配慮や支援が行き届きにくくなるのではないか、との懸念も広がっています。

もとより中山間地域の各地では、住民主体のさまざまな努力が行われており、行政や農林業団体のほか、研究者やＮＰＯなどの支援活動も広がってきていますが、このように中山間地域をとりまく状況が一層厳しくなってきて総合的な取り組みが急務であることに鑑みれば、今後は、様々な分野の専門知識や豊かな実務経験を有する産学官等の有志がネットワークを作って連携し協力して、新たな時代における中山間地域のあり方や振興策について英知を結集し、政策提言などを行うとともに、地域における自主的な取組みに対して総力を挙げて協力し支援していく必要があると考えます。

私たちは、多くの日本人のふるさと・原風景であり多面的で重要な役割を担い可能性に満ちたかけがえのない中山間地域の再生に向けて、多様な領域の専門家や実務家が連携し英知と熱意を結集するとともに、意欲的な現地の活動に呼応して支援の輪を広げていくことを決意して、「中山間地域フォーラム」を設立します。

２００６年

中山間地域フォーラム設立総会及び第１回研究会

## *日本人の原風景「中山間地域」を産学官で応援する*
## 「中山間地域フォーラム」に参加しませんか!!

わたしたち日本人のふるさとであり原風景でもある「中山間地域」には、多様な自然や生態系、美しい風景や伝統文化がまだ豊富に残されており、食料等の生産だけでなく、自然環境や国土の保全、水資源の涵養、グリーンツーリズムや情操教育の場の提供など多面的で重要な役割を果たしています。しかし、今、その多くの地域では高齢化・過疎化によるコミュニティ機能の低下が進んでおり、累次の政策にもかかわらず「集落消滅」の危機感を抱いている市町村も決して少なくありません。特にわが国の人口減少に伴う様々な改革は、今後この地域に深刻な影響を与えることが懸念されており、従来のタテ割りや部分的な施策・研究・支援活動では到底対応できない状況となっています。

今こそ様々な分野の専門知識や豊かな実務経験を持つ産学官等の有志が「中山間地域フォーラム」に結集し連携して、この地域のあり方について実証的学際的な検討を急ぐとともに、政策提言や意欲的な現地への助言や支援を行なうなど、かけがえのない可能性に満ちた中山間地域の再生に向けて活動していこうではありませんか！

発起人一同

**日時**　2006年7月1日（土）

**会場**　砂防会館・全国水土里ネット会議室
（東京都千代田区平河町2－7－4　砂防会館本館3階）
（地下鉄有楽町線・半蔵門線・南北線　永田町駅4番出口より1分）

**日程**　14：00～　発起人会

15：00～　設立総会・記念講演（第1回研究会）
講演「中山間地域の再生に向けて今何をすべきか」
講師　小川全夫教授（九州大学大学院教授）
コメンテーター：産業論の視点から　岡崎昌之氏（法政大学教授）
暮らしの視点から　目　光紀氏（中国新聞東京支局長）
交流・観光の視点から　清水慎一氏（（株ジェイティービー常務）

17：30～　懇親会（全国町村会館にて）

## ４．　設立記念シンポジウムの概要（第１回～第１０回）

### （２００７年）　　中山間地域フォーラム設立１周年記念シンポジウム
### 「中山間地域再生の最前線」

【趣旨】いま大都市圏等と地方との「地域格差」が話題になっていますが、それに劣らず重要なのが地方の都市等と中山間地域との「地域内格差」ではないでしょうか。中山間地域は、私たち日本人のふるさとであり原風景でもあり、「美しい日本」を形づくる重要な役割を果たしていますが、人口減少時代への突入や市町村の広域合併などでますます厳しい状況にあり、今後2641もの集落が消滅するおそれがあると言われています。しかし再生に向けた新しい動きも各地に出てきています。

　中山間地域フォーラムは、中山間地域に熱い思いを抱く産学民官の有志が連携協力して地域の再生を支援すべく、昨年から活動を始めていますが、このたび設立1周年を記念し、中山間地域の新しい動きを踏まえて国民的な議論を喚起すべく、下記によりシンポジウム「中山間地域再生の最前線」を開催いたします。

【テーマ】　　「中山間地域再生の最前線ー農業とコミュニティを考えるー」
【日時】　　２００７年7月7日(土)１４時３０分～
【会場】　　日本財団　２階会議室
　　(東京都港区赤坂１－２－２、地下鉄銀座線・南北線　溜池山王駅から５分)

【プログラム】
**１　基調報告**
　「コミュニティの再生と地域農業の振興」　秋田県立大学佐藤了教授

２　地域報告　「農村コミュニティの今」
①　秋田県　斉藤　了氏
②　山口県　田村尚志氏

３　パネルディスカッション
①　コーディネーター：明治大学　小田切徳美教授
②　パネラー：佐藤了教授、斎藤了氏、田村尚志氏、
　（会場の皆様のご意見をいただきながら活発な意見交換を行います。）

# （２００８年）　中山間地域フォーラム設立２周年記念シンポジウム
# 「過疎地域の現在・過去・未来－ポスト過疎法を見据えて」

【趣旨】いまやわが国全体が人口減少時代に突入するなかで、全国733市町村に広がる過疎地域は、人口減少率が再び拡大傾向をたどるなど深刻な状況にあり、今後消滅のおそれがある集落も2,641に上るとされています。時あたかも再来年3月末には過疎地域自立促進特別措置法が失効しますが、新たな過疎対策はどうあるべきでしょうか。

　中山間地域の再生を支援すべく産学民官の有識者が連携協力し活動している中山間地域フォーラムでは、このたび、ポスト過疎法を見据えた国民的な議論を喚起すべく、関係機関の共催・後援を得て、下記によりシンポジウムを開催いたします。

【テーマ】　「過疎地域の現在・過去・未来－ポスト過疎法を見据えて」
【日時】　２００８年７月５日(土)１４時３０分～１７時３０分
【会場】　東京大学弥生講堂一条ホール（文京区弥生1-1-1、地下鉄南北線東大駅前から１分
【主催】　中山間地域フォーラム・(財)農学会
【後援】　東京大学大学院農学生命科学研究科、全国水源の里連絡協議会

【プログラム】

**１　講演**

①　「中山間地域における未来社会概念」　山口県立大学大学院教授　小川全夫氏

②　「いま、過疎山村では」　中国新聞記者　二井理江氏

③　「過疎山村の豊かさの昔と今」　『増刊現代農業』編集長　甲斐良治氏

④　コメンテーター：全国水源の里連絡協議会会長・京都府綾部市長　四方八洲男氏
　　総務省過疎対策室長　佐藤啓太郎氏

２　パネルディスカッション

①　コーディネーター：農村工学研究所　工藤清光氏

②　パネラー：講演者３名、コメンテーター２名、
（会場の皆様のご意見をいただきながら活発な意見交換を行います。）

# （２００９年）　中山間地域フォーラム設立３周年記念シンポジウム
# 「どうする中山間地域等直接支払制度ー現場の声を制度設計へー」

【趣旨】中山間地域等直接支払制度は、中山間地域における耕作放棄の抑制や集落の活性化などに一定の効果をあげていますが、いよいよ今年度で２期対策が終了します。時あたかも過疎法の失効とも重なりさまざまな議論が出てきていますが、「中山間直払」は今後どうあるべきでしょうか？ 制度発足から10年を経て、一層高齢化が進んだ中山間地域の将来像をめぐる幅広く深い検討が不可欠であり、問題に直面し、集落協定の運営に知恵と汗を出している現場から、検討への積極的な参加が求められます。

　中山間地域の再生を支援すべく産学民官の有識者が連携し活動している中山間地域フォーラムでは、フォーラム結成の原点であるこの課題に総力を結集して取り組むべく 下記によりシンポジウムを開催致します。盛夏の東大に、全国の皆さんの声と力をお寄せ下さい。

【テーマ】　「どうする中山間地域等直接支払制度ー現場の声を制度設計へー」
【日時】　２００９年７月１１日(土)１４時～１７時
【会場】　東京大学弥生講堂一条ホール（文京区弥生1-1-1、地下鉄南北線東大駅前から１ヶ
【主催】　中山間地域フォーラム
【後援】　（財）農学会・東京大学大学院農学生命科学研究科、全国水源の里連絡協議会

【プログラム】

１．研究報告　「中山間地域直接支払制度の成果と課題」明治大学　橋口卓也氏

２．事例報告；進化する集落協定
　　新潟県糸魚川市根知地区　安田　修　氏
　　島根県津和野町堤田集落　水津良則　氏

３．地域からの提言：新潟県｛直接支払制度あり方検討会報告」の概要
　　新潟県農林水産部部　窪田稔博　氏

４．現場からの「３分提案」
　　コーディネーター：明治大学　橋口　卓也　氏

５．コメント
　　農林水産省農村振興局中山間振興課長　仲家修一　氏

# （２０１０年）　中山間地域フォーラム4周年記念シンポジウム
# 「地域再生に企業は何ができるのか」

【趣旨】中山間地域の荒廃を防ぎ、少しでも元気のある地域にするにはどうしたらよいか。中山間地域と連携したり交流したりする機運は、都会の若者の中に出てきて、行政もそれを支援し始めている。では、企業はどうか。ＣＳＲ（企業の社会的責任）の一環として取り組む動きも出てきているが、まだ手探りの状態にある。

　中山間地域を中心とする地域の再生に企業はどんな貢献ができるのか。試行錯誤している企業の事例を報告していただき、さらに再生支援の輪を広げるにはどうしたらいいのか、企業トップの出席を得て、地域、企業、行政の視点から探っていく。

【テーマ】　「地域再生に企業は何ができるのか」
【日時】　2010年７月４日㈰１４時～１７時30分
【会場】　東京大学弥生講堂一条ホール（文京区弥生1-1-1、地下鉄南北線東大駅前から１分
【主催】　中山間地域フォーラム
【共催】　（財）農学会・東京大学大学院農学生命科学研究科
【後援】　全国水源の里連絡協議会、㈶日本グランドワーク協会、地球緑化センター

【プログラム】
１．問題提起　「企業のＣＳＲと農山村」村田泰夫氏（農政ジャーナリスト）

２．事例報告
・「高齢化する村を応援するプロジェクト」森口博史氏（アストラゼネカ㈱広報部長）
・「一社一村しずおか運動」佐藤一樹氏（静岡県農地局）

３．ミニ講演とパネルディスカッション：
①パネラー：荒蒔康一郎氏（キリンホールディングス㈱相談役）、上杉登氏（三菱商事アグリサービス㈱社長）、藤本彰三氏（㈱じょうえつ東京農大社長）からミニ講演をしていただき、事例報告者も加わって議論を行います。
②コーディネーター：村田泰夫氏

# （２０１１年）　中山間地域フォーラム設立５周年記念シンポジウム
# 「『早期帰村』実現の課題ー福島県飯館村ー」

【趣旨】　東日本大震災及び東京電力福島第１原子力発電所の放射能漏れ事故の被害地域には、中山間地域も少なくない。その１つに全村避難を余儀なくされた福島県飯館村がある。飯館牛や野菜、花卉などの農畜産業、それに女性の力を活かして地域コミュニティを築く独自のむらづくり＝「までいライフ」が、原発事故で一瞬にして崩れようとしている。

しかし、村民たちは負けてはいない。『早期帰村プラン』を掲げて大きなチャレンジに挑戦しようとしている。菅野典雄・飯館村長を迎えて、人と人と、人と自然がつながる地域コミュニティをどうしたら再興できるか、考えてみたい。

【テーマ】　「『早期帰村』実現の課題ー福島研飯館村ー」
【日時】　２０１１年7月１０日(日)１４時～１７時３０分
【会場】　東京大学弥生講堂一条ホール（文京区弥生1-1-1、地下鉄南北線東大駅前から１分
【主催】　中山間地域フォーラム
【共催】　（財）農学会、東京大学大学院農学生命科学研究科
【後援】　全国水源の里連絡協議会、地球緑化センター

【プログラム】

**１　現地報告**

①　「飯館村は訴える」　菅野典雄氏（福島県飯館村村長）

②　「飯館村の『土』は今」　溝口　勝氏（東京大学教授）

２　パネルディスカッション

①　コーディネーター：守友裕一氏（宇都宮大教授）

②　パネラー：菅野村長、溝口教授、佐藤ハツノさん（飯館村農家・民宿経営）の三氏

# （２０１２年）　中山間地域フォーラム設立６周年記念シンポジウム
# 「中山間地域再生の新潮流」

【趣旨】　東日本大震災からの復興を急ぎつつもTPP（環太平洋連携協定）交渉への参加の是非が国論を二分する中で、食と農の再生をめざし、「人・農地プラン」や「６次産業化」が推進されている。しかし、中山間地域において、中心経営体への農地集積や本格的な６次産業化は進展するだろうか。

むしろ、いくつかの地域に芽生えつつある「農山村の新しい動き」にこそ注目すべきではないか。農業経営の規模拡大や６次産業化との関係で。こうした中山間地域再生の新潮流をどう評価し発展させたらよいか、東日本大震災後の価値観の変化も踏まえながら考えてみたい。

【テーマ】　「中山間地域再生の新潮流」
【日時】　２０１２年７月６日(日)１４時～１７時３０分
【会場】　東京大学弥生講堂一条ホール（文京区弥生1-1-1、地下鉄南北線東大駅前から１分
【主催】　中山間地域フォーラム
【共催】　（財）農学会、日本農学アカデミー、東京大学大学院農学生命科学研究科
【後援】　全国水源の里連絡協議会、（特）地球緑化センター

【プログラム】

**１　講演**

講演①　「農山村の新しいライフスタイルーいいからかんで切り拓く」
**桐山美智子氏（片品生活塾）**
講演②　「農山村の新しい経済ー新直売所・新集落営農・新林業」
甲斐良治氏（農山漁村文化協会）
講演③　「農山村の新しいコミュニティー」
作野広和氏（島根大学准教授）
講演④　「農山村の新しいサポート体制ー農山村に向かう若者とその可能性」
図司直也氏（法政大学准教授）

２　パネルディスカッション
①　コーディネーター：遠藤和子氏（農村工学研究所）
②　パネラー：講演報告の四氏

# （２０１３年）　中山間地域フォーラム設立７周年記念シンポジウム
# 「中山間地域再生の課題ー中山間地域フォーラムは何ができるのか」

【趣旨】　わたしたち日本人のふるさとであり原風景でもある中山間地域を、産学民官の連携で支援する「中山間地域フォーラム」が産声をあげてから７年。昨年１１月には、活動のさらなる発展を目指して、NPO法人化も実現しました。

今回のシンポジウムは、このＮＰＯ法人化を記念して、「中山間地域再生」というスタートラインを見直す講演会を開催いたします。あわせて、私達の活動を振り返り、新たなミッションをさぐるパネルディスカッションも企画しています。

フォーラムは、中山間地域を思う人々により支えられています。少しでも多くの皆さんにご参加いただき、「中山間地域のためにいま、私達に何ができるのか」という原点をともに考えていきたいと思います。

【テーマ】　「中山間地域再生の課題―中山間地域フォーラムは何ができるのか」
【日時】　2013年7月6日(土)１４時～１７時50分
【会場】　東京大学弥生講堂一条ホール（文京区弥生1-1-1、地下鉄南北線東大駅前から１分
【主催】　特定非営利活動法人中山間地域フォーラム
【共催】　（公財）農学会、東京大学大学院農学生命科学研究科、日本環境共生学会
【後援】　山村振興連盟、全国水源の里連絡協議会、全国中山間地域振興対策協議会、
（特非）地球緑化センター

【プログラム】

１　記念講演 「中山間地域再生の課題」結城登美雄氏（民俗研究家）

２　報告①「中山間地域フォーラムの新たな使命」野中和雄氏（中山間地域フォーラム）
報告②「フォーラムによる実践活動-南牧村支援の６年」牧山正男氏（茨城大学准教授）

３　フォーラムへのメッセージ　「私の３分間スピーチ」
首長、地域サポート人、地域リーダー、地方行政担当者、研究者

４　パネルディスカッション
①　コーディネーター：村田泰夫氏（元・朝日新聞編集委員）
②　パネラー：結城登美雄氏、松島貞治氏（長野県泰阜村長）、野老真理子氏（千葉県大里総合管理社長）、今井修氏（ジー・リサーチ）

# （２０１４年）　中山間地域フォーラム設立8周年記念シンポジウム
# 「はじまった田園回帰―見えてきた農山村再生」

【趣旨】　人口減少時代における「東京一極集中傾向」が大きな話題となる中で、農山漁村においては若者を中心とした「田園回帰」が生まれつつある。以前から徐々に始まっていたものだが、この２～３年、地域によっては目に見えて活発化している。若者は、なぜ農山漁村に向かっているのか。そこで、どのような暮らしを築こうとしているのか。

こうした動きを、「東京一極集中傾向」「極点社会化」を反転させる全国的なうねりに発展させていくにはどうしたらよいのか。本シンポジウムではその全貌に迫る。

【テーマ】　「はじまった田園回帰 ― 見えてきた農山村再生」
【日時】　２０１４年7月１３日（日）１４時～１７時５０分
【会場】　東京大学弥生講堂一条ホール（文京区弥生1-1-1、地下鉄南北線東大駅前から１分）
【主催】　特定非営利活動法人 中山間地域フォーラム
【共催】　島根県中山間地域研究センター
【後援】　全国町村会、農山漁村文化協会、全国山村振興連盟、全国水源の里連絡協議会、全国中山間地域振興対策協議会、地球緑化センター

【プログラム】

１　コーディネーター解題 「『田園回帰』と日本社会」　小田切徳美氏（明治大学教授）

２　報告①「中国山地における『田園回帰』」
　　藤山浩氏（中山間地域研究センター研究統括監・島根県立大学教授）
　報告②「『田園回帰』はこうして定着した」　石橋良治氏（島根県邑南町長）
　報告③「私の『田園回帰』」　土屋紀子氏（Iターン者）
　コメント「『田園回帰』を支える『半農半X』」塩見直紀氏（半農半X研究所代表）

３　パネルディスカッション　「田園回帰」をオールジャパンの動きに！
　コーディネーター：小田切徳美氏　会場からの質疑を中心に行います

【共催企画】中山間地域研究センター・企画展示（弥生講堂・オープンスペース）
「ここまでわかってきた中山間地域問題とその対策ー分野横断型の研究を一挙紹介！」

# （2015年）　中山間地域フォーラム設立９周年記念シンポジウム
# 「どう創る、中山間地域の「しごと」―地方創生の実践」

【趣旨】　農山村に定住する人を募ったり若者を呼んだりする際、いつも課題として挙げられるのが「農山村には仕事＝働く場がない」だ。だが、本当に農山村には仕事＝働く場がないのだろうか。役場や農協、企業や工場などの勤務先は限られている。しかし、農山村には、ナリワイとしての仕事がたくさんある。

「半農半X」など、いくつかの仕事を兼ねることで、家族を養うだけど収入は得られる。地域の人、あるいは都会の消費者とつながりをもつことで新たな仕事を生み出すことも可能だ。さらに、農山村はバイオマスなどの資源が豊富で、仕事を再発掘することができる。

「地方聰瀬瑛」の最大の論点である農山村の「しごと」について、実践的に考えます。

【テーマ】「どう創る、中山間地域の「しごと」―地方創生の実践」
【日時】　2015年10月4日（日）１３時30分～１７時５０分
【会場】　東京大学弥生講堂一条ホール（文京区弥生1-1-1、地下鉄南北線東大駅前から１分）
【主催】　特定非営利活動法人 中山間地域フォーラム
【共催】　島根県中山間地域研究センター　　【協力】東京大学大学院農学生命研究科
【後援】　全国山村振興連盟、全国水源の里連絡協議会、全国中山間地域振興対策協議、
特定非営利活動法人地球緑化センター、農山漁村文化協会

【プログラム】
１　解題　「地方創生とは何か？」　小田切徳美氏（明治大学教授）

２　基調報告　「地元にしごとを取り戻すー誰に・どれだけ・どうやって・何のため」
藤山浩氏（中山間地域研究センター研究統括監・島根県立大学連携大学院教授

３　特別報告　「イキナリ・ナリワイ・フルサトをつくる」伊藤洋志氏（ナリワイ実践者）

４　実践報告①「島根ｘ若者ｘソーシャル志向」　尾野寛明氏（島根県川本町）
実践報告②「地域おこし協力隊から地産池消のbeer & pizzaレストランへ」
高木千歩氏（新潟県十日町市）

５　パネルディスカッション
①　コーディネーター：小田切徳美氏
②　コメンテーター：松永桂子氏（大阪市立大学大学院准教授）
③　報告者も加わり、会場からの質疑を中心に行います。
④　総合司会：甲斐良治氏（農山漁村文化協会）

【共催企画】12:00～17:00　島根県中山間地域研究センター・企画展（会場のオープンスペース）
「田舎暮らし設計」と「地域人口ビジョン」のシミュレーション実演等

# （2016年）　中山間地域フォーラム設立１０周年記念シンポジウム
# 「進化する地域運営組織！―『地方創生』の次なる焦点」

【趣旨】「地域運営組織」（RMO＝Regional Management Organization）！ これまで「手作り自治区」とか「小規模多機能自治組織」とか呼ばれていた住民自治組織ですが、内閣官房まち・ひと・しごと創生本部の有識者会議で「量的拡大や質的拡充」をめざし法人化を始めとする支援策の検討が進んでおり、「地方創生の次なる焦点」になってきました。

小学校区などを活動範囲に地域の人々が主体的に参加し、地域の生活や暮らしを守るため、様々な課題解決に取り組む組織としての「地域運営組織」は、高齢者の交流・買い物支援、エネルギー確保、6次産業の運営などいわゆるローカルエコノミーを担う事例が少なくありません。

中山間地域フォーラムは、一昨年のシンポジウムで、根拠の薄い「地方消滅論」に反論し、「田園回帰」の動きが始まっていることを紹介しました。昨年は、「地方には仕事がない」という思い込みから脱し、わずか１％の所得を毎年取り戻せば、地域再生の可能性があることを訴えました。フォーラム設立10周年を迎える今年は、地域の課題をみずから解決する住民組織の活動が地域に仕事を作り、域内の資金の循環率を高めることを、多様な実践事例を踏まえて検証します。また、10っ周年記念として農業・農村研究の第一人者である識者の講演も予定しています。

【テーマ】　「進化する地域運営組織―『地方創生』の次なる焦点」
【日時】　2016年7月23日（土）１３時50分～１７時50分
【会場】　東京大学弥生講堂一条ホール（文京区弥生1-1-1、地下鉄南北線東大駅前から１分）
【主催】　特定非営利活動法人 中山間地域フォーラム
【共催】　島根県中山間地域研究センター
【後援】　（財）農学会、全国山村振興連盟、全国水源の里連絡協議会、全国中山間地域振興対策協議会、特定非営利活動法人地球緑化センター、農山漁村文化協会

【プログラム】
１　記念講演 「農業・農村政策をめぐる基本的課題」　生源寺眞一氏（名古屋大学）

２　基調講演 「地域運営組織の可能性―有識者会議の議論を踏まえて」小田切徳美氏（明治大学

３　実践報告　「進化する地域運営組織の実像」
①「山形県川西町―地域リーダーの視点」佐々木賢一氏（東沢地区協働のまちづくり推進会議）
②「沖縄県国頭村―地域サポート人の視点」小林和彦氏（前・国頭村地域おこし協力隊）
③「島根県雲南市―行政の視点」板持周治氏（雲南市）

４　パネルディスカッション
①　コーディネーター：甲斐良治氏（農山漁村文化協会）
②　コメンテーター　：有田昭一郎氏（島根県中山間地域研究センター）
③　報告者も加わり、会場からの質疑を中心に行います。

【共催企画】12～17時　島根県中山間地域研究センター・企画展（会場のオープンスペース）

## 5.　　第１回　中山間地域フォーラム　フォトコンテスト
## 最優秀賞と優秀賞　　(2015年10月)

（最優秀賞）　　「石垣棚田」　　庵原政章氏

優秀賞　　「小春日和」　　井上　昭氏

優秀賞　　「ひと時の休息」　　齊藤孝子氏

# 6.　　中山間地域フォーラムへの入会のお誘い

特定非営利活動法人中山間地域フォーラムでは、全国各地で 中山間地域の振興・再生に取り組んでいらっしゃる地域リーダー、NPO、地方大学、市町村、道府県などの皆様、中山間地域に係る様々な分野の専門知識や実務経験を持つ産学民官の皆様の入会をお願いしています。

中山間地域の振興・再生に熱い思いを抱く皆様とネットワークを作り、ともに活動していこうではありませんか。

1　会員の種類ごとの特典と年会費

中でも、多くの皆様に**第2号会員**として活動に参加して頂きたく、お願い申し上げます。

| | 概要 | 特典 | 年会費 |
|---|---|---|---|
| 第１号会員 | NPO法上の社員として議決権を持つ会員（個人） | シンポ、提言等の企画・立案に参加できる | １万円 |
| **第２号会員** | フォーラムの活動を支援し、ともに活動して頂ける方々 | ①フォーラムHPで会員レターを閲読できる、②会報が郵送される　等 | **①個人会員**<br>１口 2000円以上<br>（学生1000円）<br>②団体会員<br>１口 １万円以上 |
| 第３号会員 | メール会員 | イベントの開催案内をメールで受け取ることができる | 負担なし |

2　入会方法

(1) フォーラムHPの入会申込フォームに必要事項を記入して下さい。

※留意事項：①２号会員か３号会員かを確認して下さい。
：②個人会員か団体会員かを確認して下さい。
：③学生かどうかを確認して下さい。
：④年会費の申込口数を確認して下さい。

(2)　年会費は、**ゆうちょ銀行の口座**あてに振り込んで下さい。

①　ゆうちょ銀行振替口座番号：００１３０－５－７９００９２
②　加入者名：中山間地域フォーラム
③　通信欄：平成〇〇年度会費
④　振込手数料はご負担願います（窓口１２０円、ATM８０円）
⑤　ゆうちょ銀行以外からゆうちょ銀行に振り込む場合は、以下あてにお願いします。
ゆうちょ銀行：０１９店（ゼロイチキュウ）
当座　０７９０００９２
振込先名：トクヒ）チュウサンカンチイキフォーラム

中山間地域フォーラム

（連絡先）
〒104-0028　東京都中央区八重洲2-7-4　清水ビル３階　地球緑化センター気付
メール：tebento-staff@chusankan-f.org
ホームページ：　http://www.chusankan-f.org